

ハイブリッド開催
要申込

広島大学病院 がん医療従事者研修会

広島大学病院では、がん診療の質の向上及び専門的な知識の普及を目的とし、がん医療に携わる医師・薬剤師・看護師等を対象とした研修を以下のとおり開催いたします。

講演1 (座長) 広島大学病院 がん治療センター 准教授 岡本 渉 先生

「前立腺癌の薬物療法」

広島大学大学院医系科学研究科 腎泌尿器科学 教授 日向 信之 先生

前立腺癌に対する薬物療法としてのホルモン療法は、1941年にCharles B. Hugginsが去勢により前立腺がんが縮小することを発見したことに端を発する。その後、Andrew V. Schallyが性腺刺激ホルモン放出ホルモン(LHRH)を単離し1977年にノーベル賞を受賞した。以後薬剤によるホルモン療法は前立腺癌の治療にめざましい効果をもたらした。しかしながら、長期間のホルモン療法には心血管系合併症、骨粗鬆症、体重増加、脂質異常症、高血糖、サルコペニア、うつ、認知機能低下、疲労などの有害事象や、これらに伴い全生存期間が短縮することも分かってきた。このため、手術や放射線治療により根治が期待できる局所限局性前立腺癌や、局所前立腺に対する一次治療後に再発した患者に対するホルモン療法は使用するべきではない。

さらに近年になり遠隔転移を有する症例に対し、上述のホルモン療法に加え、新規ホルモン剤、タキサン系抗癌剤、PARP阻害剤などの薬物療法が普及してきたためこれらにつき概説する。

講演2 (座長) 広島大学病院 がん化学療法科 教授 杉山 一彦 先生

「ここまで来た放射線治療」

広島大学大学院医系科学研究科 放射線腫瘍学 教授
広島がん高精度放射線治療センター センター長 永田 靖 先生

近年の科学技術の進歩により、放射線治療は病変近傍に正確に線量を集中することが可能となり、副作用が以前より軽減できるようになってきました。

近年の高精度放射線治療技術の進歩、特に肺癌や肝癌に対する定位放射線照射(ピンポイント照射)、前立腺癌や頭頸部癌に対する強度変調放射線治療(IMRT)、子宮癌に対する画像誘導放射線治療、粒子線治療、RI内用療法等を中心に、広島がん高精度放射線治療センターの現状と最新放射線治療の展望を含めて概説させていただきます。

【開催日時】 2022年10月13日(木)18:30～

【開催方式】 Zoomを用いたオンライン開催
広島大学病院 臨床管理棟3F大会議室(定員20名)
※会場定員に達した場合はオンライン募集のみとなります※

【申込方法】 以下のいずれかの方法でお申し込みください

※申込締切：10月5日(水) 17:00

①QRコード
申込フォームに入力し
送信してください



②メール
件名に「がん医療従事者研修会申込」、
本文に、所属施設・受講方法・氏名・フリガ
ナ・職名をご記載の上、下記アドレスに送信
して下さい

byo-renkei@office.hiroshima-u.ac.jp

お問い合わせ先：広島大学病院 医療支援グループ TEL 082-257-5934

(主催) 広島大学病院 (都道府県がん診療連携拠点病院)

(共催) 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム/広島大学がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン